

生徒の学力の保証について

校長 和田 央

本校の高橋司教諭が全校生徒対象にマルチ能力に関してアンケートを行い、非常に興味深い次の2つの結果を得た。

- ・人間関係形成能力が高い。(部活動などの仲間と関係性が高く、友達と遊んだり、教えあうのが得意)
- ・論理的数学的能力が低い。(数学や理科の問題を解くのが苦手、物事の理由や機能について考えるのが苦手)

今年も多くの授業を参観することができた。9月英語の中堅教諭等資質向上研修授業研修、11月数学の初任者研修授業研修、12月の授業研修会、高大教員による協働授業、そして、日々の授業参観などである。どれも素晴らしい授業であり、ほとんどの生徒が授業の内容を理解したものとする。

ただ、果たしてそれが生徒の学力の保証になっているか。

- ・グループ学習が増え、進度の遅れが目立つ。
- ・1コマの授業が断片的になり、次の授業との連続性に欠ける。
- ・グループ学習の中で、正解のみを求める授業を行う。

そんな場面も多く見られた。本来、グループ学習は深い学びを得るための1つの手段であり、それ自体が授業の目的ではないことを再認識したい。

生徒の学力を保証する、そのためにどのような授業を展開するか、教育の永遠の課題である。それがわれわれ教師が日々研鑽を積む大きな理由である。